

第3回研究推進体「ストレス」フォーラム

ストレス応答による組織ホメオスタシス

日時: 2011年4月19日(火) 17:00 - 19:00

場所: 山口大学医学部総合研究棟8階セミナー室

司会: 藤本充章(医化学)、倉増 敦朗(分子薬理学)

1. タンパク質ホメオスタシス制御の新展開

林田直樹(医化学)

2. ストレスと血液脳関門機能

佐野泰照(神経内科学)

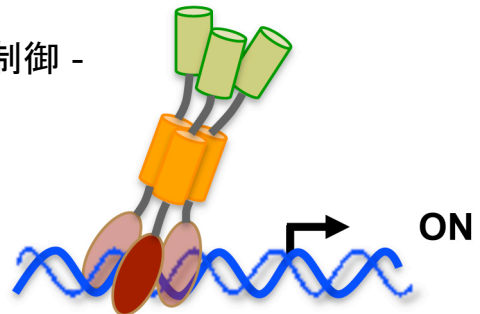
3. 骨のホメオスタシス

- PDZRN3蛋白質による骨芽細胞分化制御 -

本田 健(分子薬理学)

4. 角膜創傷治癒とホメオスタシス

木村和博(眼科学)



細胞は内外の環境変化が生じて、タンパク質や脂質などの構成成分のホメオスタシス(恒常性)を保つための様々な維持機構を持っています。これらの対応機構を一般に細胞のストレス応答と呼びます。その機構を凌駕するストレスの負荷、あるいはその機構の破綻は様々な疾患を導くことが明らかになってきています。今回は、神経、骨、角膜等の組織に焦点を当てて、それらの外的あるいは生理的環境変化にたいしてホメオスタシスを保つ分子機構の解明から、様々な疾患群の病態解明と治療に向けた研究を紹介し、議論します。

興味のある研究者、大学院生、学部学生他、是非ご参加ください。

主催: 山口大学研究推進体「ストレス応答と関連した難治性疾患のための戦略」(医化学2214)